

# 2023年リトルリーグ ルールブック 主な変更点

## 公認規定と競技規則

### 公認規定 I (b) 2022 年日本語版 (以下=日) 19 ページ

会長は、理事会の同意を得たうえで、年1回、監督、コーチまたは審判員を任命する。理事会への監督／コーチの代表権が過半数に達してはならない。理事会の4分の1 (25%) は、現在の監督・コーチでないメンバーで構成する。

### 公認規定 IV (c) 注=日 34 ページ

注：登録時、選手は自分が野球またはソフトボールのどちらの適正テストを受けるのか、あるいはオプションとして許されている場合は両方なのかを指定しなければならない。選手は、各リトルリーグにおいて2つの部門の登録書に載っていることが許される。ただし、選手は、複数のリトルリーグに登録して参加することは許されない。ただし、所属するリーグにソフトボール部門の提供がなく、ソフトボールに参加するために他のプログラムに登録する場合は、この限りではない。

### 公認規定 IV (f) =日 35 ページ

春季の適正テスト期間の少なくとも 50% 1 回も参加することができなかった候補者は、その釈明が理事会の過半数によって承認されない限り、リーグ適格性を剥奪されるものとする。

### 公認規定 VII (a) =日 43 ページ

レギュラーシーズンの試合のスケジュールはリトルリーグの理事会によって組まれるものとし、そのスケジュールでは、プレーオフ及びトーナメント試合を除いて、1レギュラーシーズンにつき1チーム当たり 12 試合 (シニアリーグ：40 試合シニア部門：レギュラーシーズンの最低試合数はなし) 以上を実施しなければならない。

### 競技規則 1.11 (a) (3) =日 63 ページ

投手のアンダーシャツまたはTシャツの人目に触れる部分は、単色のものでなければならない。投手は打者の気をそらすようなものを、その手、手首、胸につけてはならない。投手のアンダーシャツの袖が露出している場合は、白またはグレーでないこと。ネオプレーン製 (耐油加工された合成ゴム) の袖を投手が着用する場合は、アンダーシャツで覆わなければならない。守備側選手のプレーコールバンド (作戦メモを貼り付け、挿入できるリストバンド) の使用は、以下の条件で許可される。

- ・製造者が意図したとおりに装着されていること (すなわち、手首または前腕のいずれかに装着されていること)。
- ・上記の場所以外は、ベルトなど選手の身体のいかなる場所にも装着することはできない。
- ・野球とソフトボールの投手は、白、グレー、蛍光イエロー以外の単色であれば、投球しない方の腕 (グローブ) に、プレイコールバンドを着用することができる。打者の気を散らすと審判が判断した場合は、それを取り外すことができる。

### 競技規則 1.11 (j) =日 63 ページ

選手は、宝飾品を身に付けてはならない。それはたとえば指輪、時計、イヤリング、プレスレッド、ネックレス、その他の固い装飾品があげられる。この規則は宝飾品等の材質にかかわらず適用される。ただし、ビーズなど髪を束ねるための硬い髪留めは許される。

## 競技規則 3.09＝日 80 ページ

参加チームの選手、監督、コーチは、試合中に観衆に話しかけたり、歓談したり、あるいはスタンドに座ってはならない。監督またはコーチはいかなる場合においても、ホームプレート、ブルペンその他の場所で、投手のウォームアップの相手をしてはならない。ただし、投手がブルペンでウォームアップする間、そばで見守ることは許される。監督またはコーチは、試合前・試合中・その他の場合を含め、いつでもホームプレート、ブルペン、その他の場所で投手のウォームアップをすることが許される。また投手がブルペンでウォームアップする間、そばで見守ることも許される。

## 競技規則 4.10 (e)＝日 86 ページ

3 回の表裏（インターミディエット（50-70）/ジュニア/シニアリーグ部門では 4 回の表裏）を終わった後、あるいは後攻チームがリードしている場合で 3 回の表（インターミディエット（50-70）/ジュニア/シニアリーグ部門では 4 回の表）を終わった後で、一方のチームが 15 点以上リードしている場合、得点の少ないチームの監督は相手チームの勝ちを認めなければならない。4 回表裏もしくは 4 回表終了後（インターミディエット（50-70）/ジュニア/シニアリーグ部門では 5 回表裏・もしくは 5 回表終了後）を終わった後で、後攻チームがリードしている場合は、一方のチームが 10 点以上リードしている場合、得点の少ないチームの監督は相手チームの勝ちを認めなければならない。5 回表裏もしくは 5 回表（インターミディエット（50-70）/ジュニア/シニアリーグ部門では 6 回の表）を終わった後で、一方のチームが 8 点以上リードしている場合、得点の少ないチームの監督は相手チームの勝ちを認めなければならない。

注：(1) 先攻チームが 15 点もしくは 10 点もしくは 8 点以上リードしている場合は、後攻チームはそのイニングの裏の攻撃を行われなければならない。

(2) 各リーグは随意にこの規則を採用しない方針をとることができる。15 点差、10 点差もしくは 8 点差規則で決定された試合は、正式試合とみなされる。

## 競技規則 6.08 (a) (2)＝日 102 ページ

全部門：守備側チームは、打者が打席に入っているどのタイミングでも、球審に対し「申告故意四球」を選択できる。選手は試合の過程で 1 回のみ、申告故意四球を与えられることがある。これは、チームが試合中の別の時点で、この打者に対しストライクゾーンの外に 4 つのボールを投げることを制限するものではない。

## トーナメント規則 トーナメント編成「監督とコーチ」＝日 132 ページ

地区責任者、地区スタッフは監督、コーチを務めてはならない。リーグ会長と選手係は、地区責任者の文書による同意があれば、各リーグ理事会によりコーチ、監督に選任される資格を有する。

トーナメントチームの監督/コーチとして選出される資格の条件として、レギュラーシーズンの監督/コーチは、リトルリーグダイヤモンドリーダートレーニング プログラム ([LittleLeague.org/Diamond Leader](http://LittleLeague.org/DiamondLeader)) を修了している必要がある。個人がトーナメントチーム 監督/コーチに任命される前、および練習や試合に参加する前にこのプログラムを完了する必要がある。プログラムを完了したトーナメントチーム 監督/コーチは、地区管理者あるいはトーナメント委員長から要求された場合、Little League Diamond Leader 完了証明書を提示できる準備をしておく必要がある。

## トーナメント規則 責任と指揮系統＝日 130 ページ（中段）

トーナメント委員会において、年齢、住所あるいは学校所在地、別の大会への参加、レギュラーシーズン試合への 8 試合の参加条件未達成 [シニアリーグ部門ではレギュラーシーズン試合の参加試合数の条件なし] のいずれかにより、選手が不適格と判断した場合（後略）

## トーナメント規則 トーナメント編成「監督とコーチ」

### ダグアウトにおける監督、コーチ：=日 132 ページ

試合開始時に試合会場に12人以上の資格のある選手がいる場合、登録書に記載されている（または登録書に記載されている承認された交代要員）最大3人の大人が試合の監督、コーチとして行動することが許可される。ただし、トーナメントチームが試合開始時に試合会場にユニホームを着用した資格のある選手が11人以下の場合、試合開始時に最大2人の大人を監督、コーチとして指名する必要がある。その指名された2人の成人は、登録書に記載されているか、登録書で一時的な交代を許可されている必要がある。登録書に3人目の大人が記載されている場合、その大人はその試合中にダグアウトまたはグラウンドにいることは許可されていない。

登録書に記載されている（または登録書に記載されている承認された交代要員）最大3人の大人が試合の監督、コーチとして行動することが許可される。その成人は、登録書に記載されているか、登録書で一時的な交代を許可されている必要がある。登録書に3人目の大人が記載されている場合、その大人は試合中にダグアウトまたはグラウンドにいることが許される。

### トーナメント規則 トーナメント編成「リーグの適格性」2項=日 134 ページ

各リーグはそれぞれの、トーナメントの最初のゲームの前に、該当の部門または該当の年齢部門のレギュラーシーズンにおいて各チームがプレーオフとトーナメント試合を除いてそれぞれ1チームあたり12試合【シニアリーグは最低実施試合数の指定なし】以上がスケジュールされ、かつプレーされなければならない。規定 VII項参照。

注1：没収試合はレギュラーシーズンの12試合【シニアリーグは最低実施試合数の指定なし】のうちカウントしてはならない。

注2：ジュニアトーナメントの資格を得るには、12、13、14歳のシニアリーグ選手は最低8つのレギュラーシーズンの試合でプレーしている必要がある。

### トーナメント規則 トーナメント編成「選手の適格性」シニア部門=日 135 ページ

アマチュア資格を持つリトル年齢12、13、14、15、16歳の選手は、当該部門のトーナメント大会開始までのレギュラーシーズンにおいて、ミドルスクール、中学または高校の野球シーズンを除き、少なくとも6試合（特別試合もこれに含む）に参加していること。で、トーナメント大会開始までに適正な居住地または通学先の要件を満たしている各リーグに登録していること。

注1：没収試合は、チームに必須とされる12試合【シニアリーグでは10試合は最低実施試合数の指定なし】のレギュラーシーズン試合数にも、選手の参加最低試合数義務についてもカウントしてはならない。

条件2：学校の野球参加のために十分な数のレギュラーシーズン試合に参加できない選手は、この規則により必要とされているレギュラーシーズン試合への最小参加試合数の調整を受けることができる。当該選手は、その部門内のレギュラーシーズンゲームを開始する前にリーグに登録し、参加可能なゲームの60%に参加する必要がある。【シニアリーグは最低実施試合数の指定なし】

### トーナメント規則 トーナメント競技規則 3.試合規定 d項=日 144 ページ

8~10歳、9~11歳、リトルリーグ、インターミディエット(50~70)部門、およびジュニアリーグ：臨時代走：トーナメントチームは、2アウトの場合、捕手ならびに投手に対し臨時代走の起用が許される。連続打順の活用により、全員がチームの打撃順に組み込まれているため、臨時代走は最後にアウトとなった打順の選手でなければならない。

シニア部門：イニングに1回、1試合に2回に限り、攻撃側選手に対してその時点で打撃順に加わっ

ていない選手を使用してスペシャルピンチランナーを起用することができる。スペシャルピンチランナーは 1 人の選手に対し 1 回のみ使用できる。スペシャルピンチランナーに交代された選手はラインナップから外れるわけではない。スペシャルピンチランナーがそのまま残った場合は選手交代したものとみなされ、打撃順に入っている間はスペシャルピンチランナーとして起用することはできない。しかしながら、その選手がさらに他の選手と交代した場合や、その他の打撃順に入っていない選手は再度スペシャルピンチランナーに起用することができる。

## トーナメント規則 トーナメント競技規則 9.全員出場義務：＝日 148 ページ

トーナメントチームは、チーム内の全選手を含む連続打順制を採用しなければならない。チームは大会登録書を試合開始時に提出し、登録書上の全選手に打順が付与され打席に立つことが求められる。

- a. 選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。8-10 歳、9-11 歳、リトルリーグ部門の投手はトーナメント規則 4 (c)の規定を適用する。すなわち、一度マウンドから降りた投手は、投手として戻ることはできない。インターミディエット (50/70) およびジュニア部門の投手が他のポジションに移った場合、その試合において 1 度に限り、いつでも投手として戻る事ができる。
- b. 試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティなしで当該選手の打順をスキップすることができる。負傷、病気、または会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば (規則 4.01 注 2 参照)、その選手は、打撃順の最後に加えられる。
- c. 不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる (規則 6.07 参照)。
- d. 選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。
- e. 出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、最後のアウトを記録した選手、あるいは臨時代走 (大会規則 3 (d) 臨時代走を参照) と交代する。
- f. 本規則に例外はない。この規則は、シニア部門のプレーには適用されない。
- g. 注：この規則は規定 IV (i) と規則 3.03 を置き換えたものである。
- h. 監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。
- i. トーナメント委員会は、以下のような場合、罰則 (監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない) を科す権利を有する。
  1. 監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。
  2. チームが、地区大会からワールドシリーズレベル (8-10 歳部門および 9-11 歳部門の場合は州大会レベル) までの国際大会の間に、2 回以上この規則に違反した場合。
  3. 監督が故意にこの規則を無視した場合。

トーナメントの全員出場義務に関する詳細およびよくある質問については、[LittleLeague.org/MandatoryPlay](http://LittleLeague.org/MandatoryPlay) を参照。

## トーナメント規則 トーナメント競技規則 10.選手交代/再出場：＝日 150 ページ

本トーナメント規則は、レギュラーシーズン規則 3.03 項 (再出場) を置き換えるもので、全てのレベルのトーナメント試合に適用される。

- a. **シニアリーグ部門のみ**：選手の病気、負傷、退場により、チームとして 9 人の選手を揃えられない場合、以前に起用した選手を加えることができる。ただし、他に適格な交代要員がない場合に限る。その人選は、相手チームの監督が行うものとする。退場となった選手はこの再出場の対象とはできない。
- b. **シニアリーグ部門のみ**：選手交代で退いた選手は、元の打順で再出場することになる。
- c. **【この項すべて削除】**
- d. 守備の選手交代は、チームが守備の状態になされなければならない。**シニアリーグ部門のみ**：攻撃

- 時の選手交代は、選手が打席につくときもしくはベース上にあるときになされなければならない。
- e. **シニアリーグ部門のみ**：規則 10(a)項による場合を除き、先発した選手とその交代選手が同時にラインアップに名を連ねることはできない。
  - f. 8-10 歳、9-11 歳、リトルリーグ、インターミディエット (50-70)、ジュニアリーグ部門：**全員出場義務規定に反する不適切な交代が発見された場合、「打撃順に誤りがある場合」として処理されるものとする。規則 6.07 を参照のこと。**  
**シニアリーグ部門のみ**：誤った選手交代は抗議の対象となる。その抗議が次の投球またはプレーの前になされていない場合は、その抗議は認めないものとする。
  - g. トーナメント規則 3(d)項は、**8-10 歳、9-11 歳、リトルリーグ、インターミディエット (50-70)、ジュニアリーグ部門の臨時代走規定として、また、シニアリーグ部門ではスペシャルピンチランナーの走者規定として、公認競技規則 7.14 項を置き換えるものである。**
  - h. インターミディエット (50-70) / ジュニア/シニアリーグ部門のみ：投手は、降板し他のポジションに移っても、その試合で一度だけ再登板できる。  
シニアリーグ部門のみ：規則 3.03 項の指名打者制はトーナメント期間中も適用される。
  - i. シニアリーグ部門のみ：指名打者を含む先発選手は、控え選手と交代した後、元の打順で一度だけ再出場できる。控え選手（先発の選手以外）は、再出場は許されない。

### トーナメント規則 トーナメント競技規則 ~~12.10~~点差規定：=日 152 ページ

3 回終了時 [インターミディエット (50-70)、ジュニア、シニアリーグ部門では 4 イニング終了時]、後攻チームがリードしている場合は 3 イニングの表終了時 [インターミディエット (50-70)、ジュニア、シニアリーグ部門では 4 イニングの表終了時] に一方のチームが 15 点以上リードしている場合、負けている側のチームの監督は相手チームの勝ちを認めなければならない。正式試合として成立した後一方のチームが 10 点以上リードしている場合、負けている側のチームの監督は相手チームの勝ちを認めなければならない。

注 1：先攻チームが 15 点もしくは 10 点以上のリードとなっても、後攻チームはその裏の攻撃を行わなければならない。

注 2：15 点差規定で決定された試合は、正式試合とみなされる。

**注 3：規則 4.10(e)項でレギュラー規則のみ適用と概説したように、トーナメント試合では 8 点差規定は適用しない。**

以上